

**※保護者の方へ 必ずお読みください。**

**読み終えたら☑をつけましょう**

## **子宮頸がん予防ワクチンは、定期的な子宮頸がん検診に代わるものではありません □**

子宮頸がんワクチンの中には、いくつかの種類のヒトパピローマウイルス（HPV）のウイルス成分が含まれており、予防接種を受けたお子様は、これらに対する免疫を獲得できます。体内に免疫ができると、HPVにかかることを防ぐことができます。子宮頸がんから最も多く検出される（高リスク）HPV16型と18型に対する抗原を含んでおり、遺伝子工学の技術により生成されたウイルス様粒子を用いてあり、子宮頸がんを予防するためにつくられたワクチンです。

しかし、発がん性 HPV には 15 種類ほどのタイプがあり、ワクチンで予防できる高リスク型については HPV16 型と 18 型しか含んでいないため、16 型と 18 型以外の高リスク型 HPV の感染を予防することはできません。したがって、16 型と 18 型以外の高リスク型 HPV に起因する子宮頸がんをワクチンによって予防することはできないため、定期的な子宮頸がん検診を受けることが必要です。市では 20 歳以上の方を対象に 2 年に一度、子宮頸がん検診を実施しています。10代でワクチンを接種しても、20 歳を過ぎたら定期的に検診を受けることをお勧めします。

## **接種の際はできるだけ保護者同伴で受けるようにしてください □**

13 歳以上の方であれば、子宮頸がんワクチン予防接種を受けるに当たっての説明をよく読み、予防接種の効果や目的、重篤な副反応発症の可能性及び予防接種救済制度などについて理解したうえで、子供に接種させることに同意した場合に保護者が同伴をしないで接種をすることが可能です。その際、別紙「多摩市子宮頸がん予防ワクチン接種保護者同意書」と「子宮頸がん予防ワクチン接種予診票」の両方に署名をして、接種を受ける医療機関に提出をする必要があります。

しかし、接種後に注射による痛みや心因性の反応等による失神があらわれることがあります。失神による転倒等を防止するため、注射後の移動の際には、保護者又は医療従事者が腕を持つなどして付き添い、接種後 30 分程度は体重を預けることのできる背もたれのあるソファに座るなどして、なるべく立ち上がらないように様子を見るようにしてください。

## **接種を受けるに当たって □**

予防接種の実施においては、体調の良い日に行うことが原則です。健康状態が良好でない場合には、かかりつけ医等に相談の上、接種するか否かを決めてください。

また、お子様が以下の状態の場合には予防接種を受けることができません。

- ・明らかに発熱（通常 37.5℃以上をいいます）がある場合
- ・重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな場合
- ・受けるべき予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを起こしたことがある場合
- ・明らかに免疫機能に異常のある疾患を有する場合及び免疫抑制をきたす治療をうけている場合
- ・その他、医師が不適当な状態と判断した場合

現在、妊婦あるいは妊娠している可能性のある方、授乳中の方は、接種することに注意が必要な方ですので、かかりつけ医とよくご相談ください。

その他、接種に当たっての注意事項・他の予防接種との間隔を別紙「予防接種間隔表」でご確認ください。

## **接種後の注意 □**

- ・接種後は接種部位を強く揉まず、軽く抑える程度にとどめてください。
- ・接種後は接種部位を清潔に保ってください。
- ・接種翌日までは、過度な運動を控えてください。
- ・接種当日の入浴は問題ありません。
- ・接種後 1 週間は症状に注意し、気になる症状があるときは医師にご相談ください。

裏面あり

## ワクチンについて □

2回目以降の接種については、母子手帳等接種記録をよく確認して、定められた接種間隔・初回接種したワクチンと同一のものを接種するようご注意ください。

### ○組換え沈降2価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン(サーバルックス)

予防できるHPVの型 16型、18型

接種間隔 初回接種から1ヶ月後に2回目、初回から6ヶ月後に3回目

副反応 1. 重大な副反応(頻度不明<sup>注1)</sup>)

ショック、アナフィラキシー様症状、ギラン・バレー症候群(GBS)、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)

2. その他の副反応

	10%以上	1~10%未満	0.1~1%未満	頻度不明 <sup>注1)</sup>
過 敏 症	痒痒	発疹、じんましん		
局所症状(注射部位)	疼痛、発赤、腫脹	硬結	知覚異常	
消 化 器	胃腸症状(悪心、嘔吐、下痢、腹痛等)			
筋 骨 格	筋痛、関節痛			四肢痛
精神神経系	頭痛	めまい	感覚鈍麻(しびれ感)	失神・血管迷走神経反応 <sup>注2)</sup> 注3)
肝 臓				AST(GOT)、ALT(GPT)の上昇等
眼				ぶどう膜炎、角膜炎
そ の 他	疲労	発熱、上気道感染	全身脱力	リンパ節症

注1) 自発報告又は海外のみで認められている副反応については頻度不明

注2) 血管迷走神経反応としてふらふら感、冷や汗、血圧低下、悪寒、気分不良、耳鳴り、徐脈、頻脈等の症状が発現する。

注3) 失神・血管迷走神経反応は強直間代性運動を伴うことがある。

### ○組換え沈降4価ヒトパピローマウイルス様粒子ワクチン(ガーダシル)

予防できるHPVの型 16型、18型 (尖圭コンジローマなど)6型、11型

接種間隔 初回接種から2ヶ月後に2回目、初回から6ヶ月後に3回目

副反応 1. 重大な副反応(頻度不明<sup>注1)</sup>)

過敏症反応(アナフィラキシー反応、アナフィラキシー様反応、気管支痙攣、蕁麻疹等)ギラン・バレー症候群(GBS)、血小板減少性紫斑病、急性散在性脳脊髄炎(ADEM)

2. その他の副反応

	10%以上	1~10%未満	0.1~1%未満	頻度不明 <sup>注1)</sup>
全 身 症 状		発熱		無力症、悪寒、疲労、倦怠感
局所症状(注射部位)	疼痛、紅斑、腫脹	かゆみ、出血、不快感	硬結	血腫
精神神経系		頭痛		失神(強直間代運動を伴うことがある)、浮動性めまい
筋・骨格系			四肢痛、筋骨格硬直	関節痛、筋肉痛
消 化 器			下痢、腹痛	嘔吐、悪心
血 液				リンパ節症
感 染 症				蜂巣炎
臨 床 検 査			白血球数増加	

注1) 自発報告及び外国臨床試験でのみ認められた副反応。